

1 森・山・里山・社寺林をフィールドとしたプログラム

森・山・林の中には豊富な種類の自然物が存在します。

ここでは、それぞれの自然物のはたらき、動物・植物と水・土やその周辺の環境とがお互いに関わり合い、助け合って生きていること（共生）、それらがつながっていること（循環）をとらえることができます。

森・山・林の中の共生や循環の関係をj知ることj、人や生き物のくらしや、いのちと自然との関係をj知り、生命の尊さを感じとることjにつなげましょう。



プログラム名		ミラクルはっぱで遊ぼう					
対象年齢		年長 (5~6歳)					
ねらい	メッセージ	動いていない植物も生きているということに気づこう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱの形、感触、大きさ、色、種類等の違い ・葉っぱで遊ぶ楽しさ 					
参加者のめやす		幼児 2~20人 / 支援者 1人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
自然を感じるためのヒント							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
準備					<ul style="list-style-type: none"> ●「葉っぱの違いを見つける」という活動につなげていくことを意識して、あらかじめはっきりと違いがわかる葉を2種類用意します。 ●2種類のうちの一枚は、日にかざすと葉脈が透けて見えたり、向こう側が透けて見えるような葉を選びます。 		
10分		①あらかじめ用意した2種類の葉と同じ葉をさがす					
5分		②葉の違いを見つける			<ul style="list-style-type: none"> ●葉っぱを比べてみることで多様な植物が存在することを意識させます。 <p>(例) 透けるものと透けないもの 丸いものととがったもの ザラザラとつるつる 緑色と茶色 大きいものと小さいもの</p>		
5分		③見つけた葉の親の木をさがす			◎葉の種類を増やして「親の木さがし」をするだけの遊びもできます。		



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
10分	④すかし遊び（葉を透かして見えるものを当てる）をする （例）指の本数 石や枝などの自然物	
<p>【葉っぱを使った遊びのアレンジ】</p> <p>「葉っぱのカルタ取り」の遊び方</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 同種類の葉っぱを2枚ずつ、できるだけ多種類集める。 ② ①の葉のうち1枚を中が見えない袋や箱に入れ、残りの葉は床に並べる。 ③ カルタ取りの要領で、袋から1枚ずつ取り出した葉と同じ葉をさがして取っていく。 		
<p>【異年齢への対応】</p> <p>◆年少・年中：葉っぱで遊び道具を作ってみましょう。 （例）お面、首飾り</p>		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <p>◆木の赤ちゃんを探し出して、プランターや家の庭で育ててみましょう。興味を持った葉っぱや木を大切に育てることで、植物を大切にする気持ちのめばえにつながります。</p> <p>◆遊んだ葉っぱや木が、例えば「3ヶ月後や半年後にどのように変化していきだろうか？」ということについて、みんなで話し合ってみましょう。</p> <p>◆園庭や近所にある植物にも着目してみましょう。</p>		
準備物・教材等		



プログラム名		えだ枝ツンツン葉っぱ					
対象年齢		年中・年長（4～6歳）					
ねらい	メッセージ	自然の循環（葉っぱが果たす役割）に気づこう					
	発見・体感できること	<ul style="list-style-type: none"> ・枝や落ち葉の感触、におい ・新しい落ち葉、古い落ち葉、腐った落ち葉の違い ・森の暗さ、湿気、地面の感触、においなど 					
参加者のめやす		幼児 10人×2グループ / 支援者 2人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
2分	①「枝チーム」と「葉っぱチーム」の2チームにわかれる				●チーム分けが楽しくできるよ、ジャンケンをする等工夫してみましょう。		
10分	②それぞれ葉っぱや枝を拾って積み上げ、どちらが大きい山を作れるか競争する				●葉っぱや枝を集める場所は、古い葉っぱや枝が落ちていような場所を前もって選んでおき、新しい落ち葉と見比べてたりして違いを感じられるようにしましょう。		
							
3分	③積み上げた山の上に乗る、踏みしめたり転がったりして、音や感触などを楽しむ				●出来上がった山は、高さや容積を比べてどちらが大きい山か子どもたちに問いかけ、みんなで調べるようにしましょう。		
							



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
3分 7分 5分	④腐葉土を掘り、腐った葉っぱをさがす ⑤葉っぱが朽ちて土に変わっていく順に並べて、違いを見る ⑥落ち葉や枝がどのような役割をしているのか、自然の循環についての話をする	<div data-bbox="896 288 1355 577" data-label="Image"></div> <p>●土に変わっていく過程の葉っぱを順に並べることで、自然の循環に気づきやすくなります。</p> <div data-bbox="815 781 1422 987" data-label="Text"> <p>豆知識 「落ち葉の役割」 落ち葉は、ミミズやダンゴムシなどの小さな生き物や、もっと小さくて目には見えないバクテリアなどのエサになります。そして、どんどん細かくされて（分解されて）いき、やがて土になります。その土から、また木や草が育っていきます。</p> </div>
<p>【異年齢への対応】</p> <p>◆年少：山の大きさ比べを行わずに、集めた葉の上に転がったり放り上げたりして遊びます。</p>		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <p>◆ミミズを育てて、落ち葉や残飯をエサとして与えてみましょう。葉っぱの役割から展開して土の中の分解者の役割や循環のサイクルを考えることにつながります。</p> <p>◆葉っぱや木を持ち帰った場合は、それらを使って何か作ってみましょう。</p>		
準備物・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・白い布かタオル ・スコップ 	

プログラム名		さわってごらん、木の声が聞こえるよ！					
対象年齢		年長（5～6歳）					
ねらい	メッセージ	人間と同じように木も生きている（人間も木も自然の一員である）ことに気づこう					
	発見・体感できること	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の木々や葉っぱの形、感触、色など（他の季節との違い） ・木の気持ち ・木と周辺の環境との関係 					
参加者のめやす		幼児 6人×グループ数 / 支援者 グループ数と同人数					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
準備					◎事前に、さがしに行く木のテーマのカードを作っておいてもよいでしょう。 （例）トゲトゲ、ツルツル、ザラザラ、モコモコ、白、緑、太い、細い、葉っぱの有無 等		
5分		①グループごとに見つけたい木のテーマをいくつか決める			●各グループにそれぞれ1名の支援者が付きます。		
5分		②テーマにあった木をさがしに行く					
5分		③見つけたら手でさわってみたり、耳をあててどんな音がするか聞いてみたり、ルーペで木の表面を見てみたりする					
2分		④グループで観察した木の中からお話ししてみたい木を1本選ぶ			●聴診器があると木の音を聞くのに便利です。		
5分		⑤木の今の気分はどうか、どんな表情をしているかみんなで話しあう			●まず支援者が木との会話をし、木の気持ちを考えたり、木と話す楽しさを伝えましょう。 （例）葉っぱが全部落ちた木と芽が出ている木との違い		
5分		⑥みんなの想像する顔（画用紙等に表情を描いたもの）を木に貼る			●木の想いを子どもたちそれぞれに表現させることで、様々な感じ方があることも知らせましょう。 ◎その場で表情を描いてみるのもよいでしょう。		



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
3分	⑦木に話しかけて、自分たちの思いを伝えてみる	<div data-bbox="938 250 1307 490" data-label="Image"></div> <p>●支援者は木に話しかけるきっかけを作ったり、気候に応じて木の気持ちを代弁したりして、子どもたちの思いを引き出す工夫をしましょう。</p> <p>◎冬芽にはいろいろな表情があります。冬芽さがしを楽しんでみるのもよいでしょう。</p> <p>◎木同士のなわばり争いといった、植物の生存競争の一面もあることを伝えるのもよいでしょう。</p> <div data-bbox="1153 730 1422 994" data-label="Image"></div>
<p>【異年齢への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆年少：木を抱きしめたり、触ったりして、木のあたたかみ（安心感）を感じてみましょう。 ◆年中：支援者があらかじめ木に表情カードを貼っておき、「なぜその表情（かなしい、うれしい）をしているのかな？」と問いかけ、みんなで考えてみましょう。 		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生活の中で、木を材料にしてできているものにはどんなものがあるか探してみましょう。切られてしまう木も違う場面で活躍していることを語りかけ、できるだけ長く大切に使う気持ちのめばえにつながります。 ◆園庭や近所にある木についても、木と周辺の環境との関係を考え、木も人間も気持ち良くくらししていくためにはどうすればよいか、みんなで話し合ってみましょう。 		
準備物・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ分けのためのシールやリボン、バンダナ等（グループ数が多い場合） ・木に貼る顔（画用紙等にいろいろな表情を描いたものや、白紙のもの） ・ルーペ（魔法のめがね） ・布テープ ・油性ペン ・聴診器 	

プログラム名		はじめての冒険					
対象年齢		年中（4～5歳）					
ねらい	メッセージ	自然の大きさを感じとり、人間は自然の中で生かされているということに気づこう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・地面を踏みしめる感触、音、土のにおいなど ・山道を最後まで歩き通すことの心地よさ（達成感） ・山（自然）の中での開放感 ・動物の暮らし（人が通らないところ、けもの道など） 					
参加者のめやす		幼児 6人×グループ数 / 支援者 グループ数と同人数					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
準備					<ul style="list-style-type: none"> ●コースは以下の観点から設定します。 <ul style="list-style-type: none"> i) 大人の視点で全体が見渡せる場所 ii) 子どもの視点では前方が少し見えにくい場所 iii) できれば、けもの道と交わっていたり、近くを通れるような場所 ●事前に十分に下見をし、安全点検をしておきます。また、迷子にならないよう、十分配慮して準備しましょう。 ●グループごとにコースが選べるよう、何通りか準備しておきます。 例えば、コースごとに色を決め、目印となるように色布等をところどころに巻き付けておき、ゴールまでたどっていけるようにするとわかりやすくなります。 ●服装は、はき慣れた靴に長袖、長ズボンを着用しましょう。 		
5分		①支援者が、山の斜面を登る際の注意事項を話す …どこにたどりつくのか 安全面での注意 等					
3分		②グループごとに、どのコースで登るか選ぶ					



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
<p>10分</p> <p>8分</p> <p>4分</p>	<p>③ 登る途中で見つけたものをルーペで観察したりにおいをかいだり、足の裏で地面の感触を楽しんだりする</p> <p>④ グループ全員が目的地にたどり着いたら、みんなでおやつを食べて休憩する</p> <p>⑤ 登ってきた斜面を見下ろして達成感を味わったり、登ってきた感想を伝えあう また、けもの道についても話し合う機会を作る</p>	<p>● 「カサカサ」、「フワフワ」、「パリパリ」等いろいろな感触を言葉で表現させてみましょう。</p>  <p>● 目的地に着いたら抱き上げる等、登ってきたコースを広く見渡せるような配慮をしましょう。</p>  <p>◎ 四季を通じて同じコースを登ると、季節の移り変わりや身体の成長を感じる機会にもなります。</p>
<p>【異年齢への対応】</p> <p>◆年長：ポイント地点を設けてウォークラリー式にしてもよいでしょう (例) 松ぼっくりの的あてゲーム、地面の音を聞く</p>		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <p>◆活動で発見したもの以外に、どんなフィールドサイン（動物がいるという手がかり）があるか調べてみよう。</p> <p>◆別の季節や別の山（森）にも出かけて、森林浴を楽しみましょう。</p>		
<p>準備物・教材等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色布（はちまきなど） ・おやつ ・ルーペ 	



プログラム名		森の中でみつけた！					
対象年齢		年長（5～6歳）					
ねらい	メッセージ	自然の大きさを全身で感じ取り、人間も自然の一部であるということに気づこう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・地面を踏みしめる感触、音、土のおいなど ・自然の中で生き抜く動植物たちの工夫 					
参加者のめやす		幼児 6×3グループ / 支援者 4人					
実施時間		40分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
準備					<ul style="list-style-type: none"> ●コースは事前に下見をし、立ち枯れた木やハチの巣など危険なものがないか安全確認しておきます。 ●森の不思議さや楽しさを感じられるようにコースを選択しましょう。 (例) 歩くと落ち葉の音がしたり、森のおいが感じられたりするところなど 		
10分		①森の探検 ・電車ごっこで森を歩く ・目を閉じて電車ごっこ			<ul style="list-style-type: none"> ●「カサカサ」「フワフワ」「バリバリ」等のいろいろな感触を体験できるようにします。 ●目を開けたときと閉じたときの感触の違いを感じるようにします。 (子どもたちの声)「サワサワって聞こえる。下に落ち葉があるからや」「パキパキって聞こえたよ」「怖くなかったよ」 <ul style="list-style-type: none"> ●目を閉じて電車ごっこをする時は、安全面には十分留意します。 		
							



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
<p>15分</p> <p>②キツネとことり（かくれんぼ）</p> <div data-bbox="207 302 742 638" style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>「キツネとことり」のおそび方</p> <p>①キツネ役がオニ、ことり役が森の中に隠れます。 （キツネは目を閉じ10を数えます）</p> <p>②ことりが隠れたところで、キツネは最初の場所から移動せずに、視覚、聴覚でことりを探します。</p> <p>③ことりは常にキツネの様子を見ながら、隠れます。</p> <p>④キツネはことりを見つけたとき、指を指して「○ちゃん見つけた!」と言います。見つけられたことりは出てきます。</p> </div> <p>15分</p> <p>③ふりかえり</p> 		<p>●初めて行く場所では、子どもたち2人で隠れるようにします。</p>  <p>●キツネ（オニ）がことりを見つけれなかったときは、ことりが「チュンチュン」と鳴いたり、木を揺らしたりして、ヒントを出します。</p> <p>●どうすれば見つかりにくく、何が見つかりにくいかを一緒に考え、自然の中では生き物はどのように工夫して生きているのか話し合います。</p>
<p>【異年齢への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆年少：・電車ごっこをしないで、その場で目を閉じて、音を聞きます。 ・支援者がキツネ役になり、各グループに支援者がついて一緒に隠れます。 ◆年中：・二人組になり、1人は目を閉じて他方が目を開けて、森の中を案内します。 ・キツネ（オニ）が、その場で探すのではなく、探しに行くかくれんぼにします。 ◆年少・年中・年長： ・グループ（年長・年中・年少）ごとに目を閉じて、その場で足踏みをして音を聞きます。 枝や葉っぱの多いところなど、感触の違いが分かりやすい場所に移動し、同様に足踏みをして音を聞きます。この動作を繰り返します。 ・年長がキツネ役となり、ことり役の年長が年中・年少を連れて隠れます。 		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆食事の場面で、自然のものを食べている話をし、自然界での「食う、食われる」の関係（食物連鎖）について考えてみましょう。 ◆町の中や園（所）にいるときの音を意識して聞き、自然の中での音との違いを比較してみましょう。 		
<p>準備物・教材等</p>		

プログラム名		ふわふわ、さくさく、木～もちいい					
対象年齢		年少、年中、年長（3～6歳）					
ね ら い	メッセージ	自然の循環に気づこう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・木のぬくもり、声（木の音、響きなど） ・風の音 ・葉っぱの感触や重さ ・土のにおいや土の中に棲んでいる生き物の発見 					
参加者のめやす		幼児 70人 / 支援者 4人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
自然を感じる ためのヒント							
時 間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
5分		<p>①好きな木を探し、観察したりふれたりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抱きつく（1人で） ・木と話す ・ルーペで見る ・上を見る（大きさ、高さ） ・風が葉っぱを揺らす音を聞く ・揺らしたり、押ししたりする ・木の根元を見る 			<ul style="list-style-type: none"> ●ウルシなどの木に注意します。 ●1本の木に1人でなくてもかまいません。 ●木は怖いものではなく、「やさしいもの」と思えるアプローチをしましょう。 ●子どもたちが木のぬくもりを感じたり、風の音に気づいたりできるようにしましょう。 ●1本の木から全体の木へ、森、林を意識させましょう。 <p>●子どもたちの興味や関心が他にある時は、面白いと思うものでまず遊んでから、今遊んでいる内容に注目できるようにしましょう。</p> <p>◎“木オニ”などルールのある遊びに結びつけることができます。</p> <p>◎画用紙で作った目玉を木に貼り、何に見えるか見立て遊びができます。</p> <p>◎ルーペで見た生き物を、他の子どもに紹介し、発見や驚きを共有します。</p>		
							



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
5分 10分	②葉っぱを集める（グループ） ③葉っぱで遊ぶ ・投げる ・飛ばす ・かぶる ・寝る ・握る ・つぶす ・においをかぐ	栗のイガは集めないように伝えます。 ●集める場所を伝えます。 ◎“葉っぱのグラデーション遊び”ができます。 葉っぱの色の変化を見ることから土へ還っていく葉っぱの姿に気づくことができます。 ◎同じ種類の葉っぱを見つけたり、葉っぱの親の木を探したりすることができます。 ●葉っぱの感触や重さ、土のにおいを感じ取り、土の中に棲んでいる生き物を探してみます。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p align="center">「葉っぱのグラデーション」のあそび方</p> <p>白い布の上に葉っぱをならべることで、緑から黄、赤、茶色に変化する様子を観察するあそびです。</p>  </div>		
5分	④土を掘る ・手で掘る ・道具（木の枝など）を使って掘る ・においをかぐ ・虫を見つける ・ルーペで見る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p align="center">豆知識「ミミズの育て方」</p> <p>準備物：観察ケース、給食などで出る残飯、土、砂、葉っぱ、ミミズ</p> <p>観察ケースに土、砂、葉っぱ、残飯を層にして入れ、ミミズを入れます。土はいつも湿った状態にしておきます。残飯や土がどうなっていくか観察します。</p> </div>
5分	⑤ふりかえり 木と葉と土との関係を子どもと考える	●土がどのようにしてできるのかや、落ち葉は虫のえさや虫のフン、土と混ぜて木の栄養になることなど自然の循環について話をします。 ●食物連鎖の事象（虫の死など）に出会った時、どこにつながっていくのかを伝えます。 （例）虫は死ぬと土に還っていきます。
<p>【異年齢への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆0歳児：座って、葉っぱを触ってみましょう。（葉っぱの感触） ◆1歳児：葉っぱの上を歩いてみましょう。 ◆2歳児：的（ロープを輪にして地面に置くなど）に葉っぱを投げ入れる遊びをしてみましょう。 口に入れないように注意しましょう。 ◆年 少：触ることが中心です。 ◆年 中：体験をします。 ◆年 長：体験したことを踏まえ、発展させていきます。 		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ルーペで見た生き物を図鑑で調べてみましょう。 ◆落ちている自然物を使って、身近に使えるものを作ってみましょう。 ◆葉っぱから土の循環に気づくためにミミズを育ててみましょう。 ◆山の土で植物を育てて、寄ってくる虫たちを観察してみましょう。 		
準備物・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーペ ・画用紙で作った目玉（木の見立て遊び） ・白い布（葉っぱのグラデーション遊び） 	



プログラム名		あきのとおりみち					
対象年齢		年中・年長（4～6歳）					
ねらい	メッセージ	生命の循環に気づこう					
	発見・体験できること	<ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱや実や花の色、形、におい、感触、色など ・自然の中から聞こえてくる音 ・秋の生き物との出会い 					
参加者のめやす		幼児 5×3グループ / 支援者 5人					
実施時間		50分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
準備					<ul style="list-style-type: none"> ●問題のシートを作成します。（5問程度） ●問題は、園で体験したことが良いでしょう。 ●あらかじめ歩くコースを決めておき、コースのポイントに問題シートを設置しておきます。  <ul style="list-style-type: none"> ●周囲の安全に留意できるように、危険な場所をチェックしておきます。 		
7分		①活動の説明をする <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれる ・グループで色分けする 			<ul style="list-style-type: none"> ●グループで活動することを伝えます。 ●大きな声を出すと森の生き物たちが驚くので、出さないようにします。 ●むやみに自然のものを採らないようにします。 ●いろいろな方向（上や下）を見て、探すことを伝えます。 ●問題シートの数を伝えます。（1グループ5個） ●各グループに支援者が1人つきます。 		

「問題の例」

- ・ひっつきむし（おなもみ、いのこづち）をくっつけてみよう。
- ・葉っぱの赤ちゃんがいるよ。
- ・手より大きな葉っぱを探そう。
- ・いいにおいのする葉っぱを探そう。
- ・もみじのヘリコプターを見つけよう。
- ・細長いドングリを探そう。
- ・グループと同じ色の物を探そう。



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
<p>25分</p> <p>10分</p> <p>8分</p>	<p>②問題を解きながら進む ・グループの色の問題を探し、そこに書かれてあるものを見つける</p> <p>③結果発表 ・白い布の上に、見つけてきた物を並べる</p> <p>④ふりかえり ・秋は生き物にとってどのような時期であるかを子どもたちと一緒に考える</p>	<p>◎1問1シートではなく、1枚のシートにすべての問題を書き、色別（グループの数）にして、一箇所に貼ってゲームをすることもできます。</p>  <p>●秋は生き物にとって、生命をつなげていく準備期間であることを気づかせましょう。 (例) ・ひつつきむし：生き物に種を運んでいきます。 ・葉っぱの赤ちゃん：春には大人になります。 ・もみじ：風で種を運んでいます。 ・ドングリ：芽や根が出てきます。</p> <p>●子どもたちが見つけてきたもので考えると、子どもたちにメッセージが伝えやすくなります。</p> <p>●ふりかえりでの話の内容を意識した問題設定を工夫しましょう。</p> <div data-bbox="753 1232 1356 1456" style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">豆知識 「ドングリの育て方」</p> <p>① ドングリを水につけ、沈んだものを選ぶ。 ② 綿などを濡らしたものの上にドングリを置く。 ③ 4、5日で根が出る。 (日当たりがいいと早く芽が出る。) ④ 土に植える。</p> </div>
<p>【異年齢への対応】</p> <p>◆年少：問題シートに探すものの実物を貼り、同じ物を1人ひとりが探しに行き、その都度ふりかえりをします。 ◆年中：・2人組みでします。 ・ポイントに、色紙の入った箱を置き、箱の中から引いてきた色と同じ色の葉っぱを探します。 ・問題を1つにして探します。</p>		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <p>◆問題シートに書かれたものを探しながら、園庭を探検します。 ◆木の赤ちゃんを育ててみましょう。 ◆見つけてきたドングリを植えて成長を見守りましょう。</p>		
<p>準備物・教材等</p>	<p>・問題シート ・ビニール袋（グループ数） ・白い布（グループ数）</p>	

プログラム名		さがしてみよう！集めてみよう！作ってみよう！					
対象年齢		年中・年長（4～6歳）					
ねらい	メッセージ	豊かな感性を培おう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・木々や葉っぱの形、感触、色 ・ケーキをつくる楽しさ ・お誕生日会をみんなで祝う 					
参加者のめやす		幼児 50人 / 支援者 4人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
自然を感じるためのヒント							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
5分		①グループごとに座る ・誕生児の紹介 ・ケーキのつくり方を説明			●くじは、形や感触がわかるものにします。 （例）丸いもの、細かいもの、四角いもの、 やわらかいもの、小さいもの、きれいなものなど ●あらかじめ3グループに分け、グループに必ず誕生児を入れておきます。 ●話を聞くことができる場所を決めておきます。		
5分		②ケーキの土台作り ・洗面器に砂を入れる ・洗面器をひっくり返す			●グループは帽子の色で分けます。 ●土台の位置は各グループが比べやすいようにあらかじめ決めておきます。 ●子どもだけでひっくり返すことが難しい場合は、支援者が手伝いましょう。		
							



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
5分	③誕生児がくじを引く	●くじでグループごとに集めてくる自然物の形や様子を 決めます。
10分	④ケーキのデコレーションをする ・くじで決めた形や感触、色の 自然物を集める ・飾りつける ・他のグループのケーキを見る	●子どもが集めてきた自然物は、その都度認めていきま しょう。 ●自然物を集めるのが難しい場合は、ヒントを出すなど、 声掛けをしましょう。 ●各グループの作品を認める言葉を添えましょう。
5分	⑤パーティーをする ・お誕生日のお友だちを祝う ・♪お誕生日の歌を歌う♪ ・記念撮影 ・ケーキを食べる雰囲気を作る ・あとかたづけ ・自然物を元に戻す	●各グループの作品を認める言葉を添えましょう。  ●自然のものは自然に返します。そうでないものはゴミ 袋に入れて持って帰りましょう。 ◎子どもたちと一緒に作ったものはどうするか話し合い ましょう。
【異年齢への対応】		
<p>◆0・1・2歳児：支援者が集めてきた素材を使って、あらかじめ作っておいたケーキの土台に飾りつけましょう。</p> <p>◆年少：見つけてきたもので、飾りつけましょう。</p> <p>◆年中：集めてくるものを具体的に表しましょう。 (例) まつぼっくり、葉っぱ、枝</p>		
準備物・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルで作ったカップ (人数分：砂や水、飾りつけの自然物などを入れるために使います) ・洗面器のような容器や大小さまざまな空き容器 (砂を固めるために使います) ・くじ (1グループ2種類のくじが引けるようにします) 	

プログラム名		木となかよし					
対象年齢		年中・年長（4～6歳）					
ねらい	メッセージ	林では多様な木が支えあって生きていることに気づこう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱ、枝、木の実の感触、大きさ、色の違い ・木の暖かさ、太さ、高さ、感触 					
参加者のめやす		幼児 100人 / 支援者 5人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
5分	①集合				●支援者は、枝、葉、木の実を見せて違いやつながりを話します。		
	②枝、葉、木の実のうち好きなものを1つ探す				<ul style="list-style-type: none"> ●好きなものを見つけられるように言葉がけをします。 ●探せない子どもには、「こんなのはどうかな？」と見つけたものを見せたり、声かけをしたりします。 ●好きなものを見つけてきた子どもには、「どんなものを見つけてきたの？」など声かけをします。 		
5分	③仲間さがし（グループ分け）				●木に関心を持つように、木に関係のある「枝、葉っぱ、木の実」のグループを作ります。		
	・もう一度、前とは別のものを探す						
	・同じものを見つけてきたものが仲間になり、グループの冠をかぶっている支持者の所に集まる						





時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
<p>15分</p> <p>④木の観察（グループ活動） ・木に抱きつく</p>  <p>・木の感触</p> <p>・木の大きさ ・木を囲む</p> <p>5分</p> <p>⑤できるだけたくさんの木を囲む ・手をつないで、上を見る</p>  <div data-bbox="903 1081 1337 1411" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「木々が支え合う 二つの意味」</p> <p>1. 枝があり、葉っぱがあり、木の実がなって一つの木ができあがっています。</p> <p>2. 林の中は風が吹いても、台風がきても、木と木が手をつないでいるように、お互いに支えあっているから倒れません。</p> </div>		
<p>【異年齢への対応】</p> <p>◆1・2歳児：支援者と一緒に木に触れたり、手や枝などで木をたたき音を鳴らしたりしてみましょう。</p> <p>◆年少：支援者と同じものを探してみましょう。</p>		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <p>◆近くの神社などに出向き、いろいろな木を見つけてみましょう。</p> <p>◆木でできている家具や道具と自然の木の感触を比べてみましょう</p>		
<p>準備物・教材等</p>	<p>・木の冠、木の実の冠、葉っぱの冠</p>	

プログラム名		耳をすまそう、探してみよう！！					
対象年齢		年長（5～6歳）					
ねらい	メッセージ	生きものの不思議さや命の大切さに気づこう					
	発見・体感 できること	・多種多様な虫が生きていること		・虫の鳴き声		・虫の形	
参加者のめやす		幼児 40人 / 支援者 4人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じる ためのヒント							
							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
5分	① 5～6人のグループに分ける	◎子どもたちが虫に興味を持つように工夫しましょう。 （例）絵本を読んだり、昔話をしたりするなど ●子どもたちがどんな虫を知っているか聞いてみましょう。 ●事前に虫を捕っておいて、見本を見せましょう。					
10分	② 虫について話をする ③ 虫探し ・約束事を聞く ・グループで探す	●虫とりはグループで協力して探すように伝えます。 ●生きものには、優しく接するように声をかけます。 （例）「みんなは手や足を引っ張られたら痛いよね。虫さんも手や足を引っ張られたら痛いんだよ。だから優しくしようね。」 ●手で虫を触れない子に対しては、捕まえた虫を見たり、虫かごを持ったりして、活動が楽しめるように促しましょう。 ●集合する前に「もう少しで集まるよ」と声かけして、子どもたちが納得して集合できるようにします。					
5分	④ 捕った虫を数えたり、比べたりする ・種類、数						



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
<p>5分</p> <p>⑤ 図鑑で調べる</p>  <p>5分</p> <p>⑥ 虫がどんな時に鳴くのか、どんな方法で鳴くのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで考える ・考えたことを試す <p>・虫を返す</p> 		<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが持っている図鑑に載っていない時は、グループごとにある大きい図鑑で調べるように声をかけします。 ●支援者はグループをまわって、子どもの気づきに耳を傾け、他の子に紹介し、発見を共有しましょう。 ●捕ってきた虫が掲載されている図鑑の箇所を紹介し、より親しみが持てるようにしましょう。 ●普段見ることのできない角度（虫かごの底など）から虫を見てみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ●「虫はどんな声で鳴くんだろう？いつ鳴くんだろう？」などと問いかけをして、イメージを作ります。 ●考える時間がない時は、支援者から提案するようにします。 ●子どもたちから出た意見を大切に、試してみます。鳴かなかった場合は、夜に虫の声を聞いてみよう、気持ちが持続するように声をかけます。 (例) 黒幕などをかけ、夜と同じ状態になるようにします。 <ul style="list-style-type: none"> ●捕った虫は自然に返します。 ◎里山で「虫の声」や「手のひらに太陽を」などを歌うと、より自然に親しめます。 ◎虫などを持ち帰る際は、飼育方法を考えたり、環境を整えるなどの話し合いをしましょう。
<p>【異年齢への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆0・1・2歳児： <ul style="list-style-type: none"> ・虫の声を聞きましょう。 ・虫の歌を歌いましょう。 ・跳ねる虫をおいかけて、目で追ったりしましょう。 ・絵本などを使って、虫に興味を持ちましょう。 ◆年少： <ul style="list-style-type: none"> ・小グループに分かれ、グループに支援者がついて同じ遊びをしてみましょう。 ・虫になりきってみましょう。 ・虫の絵本を読みましょう。(例)「だんまりこおろぎ」作絵：エリックカールソンなど 		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆捕ってきた虫を実際に飼ってみましょう。 ◆図鑑で生態を調べてみましょう。 ◆飼育するには何が必要か、調べてみましょう。 ◆虫の卵を見つけたら、孵化させてみましょう。 		
<p>準備物・教材等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図鑑 大（グループ数） ・図鑑 小（人数分） ・観察ケース（グループ数） ・笛 	

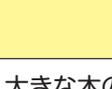
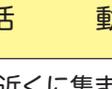
プログラム名		オータムビンゴ（四季を通してできるビンゴゲーム）					
対象年齢		年中（4～5歳）					
ねらい	メッセージ	自然界は多様なもので成り立っていることに気づこう さまざまな自然物に親しみ、自然を大切にする気持ちを持とう					
	発見・体感 できること	・季節に応じた自然物の感触（やわらかさ、硬さ、形、色、温度、においなど） ・発見したものを共有し、比べたり選んだりする楽しさ					
参加者のめやす		幼児 6人×6グループ / 支援者 2人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
自然を感じるためのヒント							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
2分		①グループに分かれる			<ul style="list-style-type: none"> ●できるだけ同種類のものが重ならないよう、支援者が声かけをしましょう。グループにこだわらず、一人ずつで探した方が違う種類のものが集まりやすいでしょう。 ●自然物をむやみにもぎとらないようにしましょう。 ●グループごとに集めた自然物の種類が、9種類以上になってしまった場合は、グループのメンバーで9種類に選定します。また、9種類に満たない場合も、手分けして集め、9種類になるようにします。 		
5分		②各自散策して5種類程度の自然物（落ちているもの）を見つける					
5分		③グループ内で集めたものを持ち寄り、その中から9種類（ビンゴシートのマス目の数に合わせて）選び出す					
		<p>室内でシートを敷いて実施することもできる</p> 			<ul style="list-style-type: none"> ●室内で実施する場合は、あらかじめグループに行き渡る量の多種類の自然物を集めておきます。 		

プログラム名		森のジャンケン					
対象年齢		年中（4～5歳）					
ねらい	メッセージ	自然界には無駄なものがないということに気づこう					
	発見・体感 できること	・自然物が楽しい遊び道具になること					
参加者のめやす		幼児 5人×6グループ / 支援者 2人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
2分	①グループに分かれる				◎あらかじめ人数分の自然物を用意しておく、室内でも実施可能です。		
3分	②各自が、ジャンケンのゲー・チョコキ・パーのうち、好きな種類を一つ決める						
5分	③各自散策し、決めたジャンケンの手の形に見立てられそうな自然物の一つ拾って、グループに持ち寄る (例) ゲー → どんぐりの実、石 チョコキ → 二股になった枝 パー → 葉っぱ				●ジャンケンの舞台用に白布や白紙を用意しておく、それぞれから出されたものを識別しやすくなります。		
2分	④ジャンケンに出場する代表選手と、1番最初に使うジャンケンの手の種類（自然物）を1つ選ぶ				 <p>ゲー</p> <p>パー</p> <p>チョコキ</p>		



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
<p>13分 (⑤～⑦の 繰り返し)</p> <p>3分</p> <p>2分</p>	<p>⑤3つのグループからの代表者計3名が、支援者の「ジャンケンポン」の合図で選んでおいた自然物を1つ、同時に出す</p> <p>⑥勝ったチームは、出された自然物を全部取り、自分たちのものにする</p> <p>⑦持っていた自然物が全部なくなったチームが出た場合や、制限時間を越えた場合はそこで終了し、残った自然物の数で順位を決める</p> <p>⑧他に自然物を使ってどんなことをして遊べるのか話し合う</p> <p>⑨使った自然物を元の場所に戻す</p>	<div data-bbox="821 280 1412 784" style="border: 1px solid #90EE90; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">「森のジャンケン」のルール</p> <p>◇あいこの場合 1度出した自然物を引っ込めて、再度使うことができる</p> <p>◇2チームが勝ち残った場合 自然物を新たに選び直し、そのまま対戦を続ける</p> <p>◇勝負の例：パー・パー・グーの場合 グーは負けたのでパーのチーム同士の対戦を見守り、パーを出したチーム同士で対戦する。最終的に勝ち残ったチームが、負けた2チームの持っている自然物もらう</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="813 840 1157 1198" style="text-align: center;"> <p>ジャ〜ンケン…</p>  </div> <div data-bbox="1181 840 1420 1120" style="text-align: center;">  <p>ポン!</p> </div> </div>
<p>【異年齢への対応】</p> <p>ジャンケンのアレンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆年少：「支援者と同じものを出せたら勝ち」というジャンケン ◆年長：「負けるが勝ち」、一対一ではなく複数でジャンケンをするなど 		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆拾った自然物（葉っぱ、枝、実など）を使って、生活に役立つ道具（写真立て、壁飾り、おもちゃなど）を作ってみましょう。 ◆気に入ったものが、時間の経過とともにどのように変化していくか話し合ってみましょう。（どんぐりはどうなるの？、葉っぱはどうなるの？など） 遊び道具として役立つものが、自然界では本来の役割（循環の一部）を担っていることへの気づきにつながります。 		
<p>準備物・教材等</p>	<p>・白布（集めたものを並べたり、ジャンケンの舞台に使う）</p>	



プログラム名		みんなでスクラッチ木!!					
対象年齢		年中・年長(4~6歳)					
ねらい	メッセージ	人間と同じように木も1本1本違いがあることに気づこう					
	発見・体感できること	<ul style="list-style-type: none"> ・こすりだし ・木の感触(暖かさ、手触り)、色、においなど ・木の違い、種類 					
参加者のめやす		幼児 40人 / 支援者 7人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
5分		大きな木の近くに集まる			<ul style="list-style-type: none"> ●あらかじめこすりだしたカードを見本として用意しておきます。 ●子どもたちに、こすりだしを実際にやって見せ、わかりやすくやり方を伝えます。木にも触るように伝えます。 ●木のこすりだしは、縦に塗るよりも横に塗った方がよくわかります。 		
10分		①こすりだしの方法 <ul style="list-style-type: none"> ・見本を見る ・やり方を見る ・約束事を聞く 			<ul style="list-style-type: none"> ●他のグループと同じ木にならないようにします。 ●グループにクレパスと紙を渡します。紙は一枚ずつ渡し、残りは支援者が持っています。 ●各グループに支援者が一人ずつつき、支援します。 ●木の感触もわかるように声かけをします。 (例)「どんなにおいがしたかな？」 「この木は冷たいかな? 温かいかな?」 		
		②こすりだし <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに好きな木のこすりだしをする (1本の木を決める→木に触る→こすりだし) 			◎こすりだしたものを、木に貼り付け展示してみましよう。		
							



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
10分	③こすりだし当てっこゲーム ・こすりだしのカードを見る ・グループで木を探し、こすりだしをする ・答え合わせ (同じ模様の木の所に行き、正解を確かめる)	●あらかじめこすりだしたカードを2種類用意しておきます。(杉・竹など種類が違い、その森にあるもの) ●グループで手をつないで探しに行くことを伝えます。 ●グループでしたこすりだしと用意しておいたものを見比べて、正解を伝えます。 ◎こすりだしのカードと実物のカードを作り、合わせあそびができます。 
5分	④ふりかえり	●みんなが1人ひとり違うように、木も1本1本違うことなどのメッセージを伝えます。 ◎あらかじめ用意しておいた園のシンボルの木のこすりだしを見せて、園に帰ってから探します。
【異年齢への対応】 ◆年少：・身近にあるものをこすりだして、当てっこゲームをしてみましょう。 (例) 10円玉、イチヨウの葉っぱ、モミジの葉っぱ、ドングリなど ・木に触ったり、におったりして、感触を感じてみましょう。 ・合わせあそびをしてみましょう。		
【園や家庭へ帰ってから】 ◆こすりだした木の肌(紙)をつなぎ合わせて1本の木を作ってみましょう。 ◆葉っぱなどの自然物でスタンプあそびをしてみましょう。 ◆園や家庭にあるいろいろなものでこすりだしをしてみましょう。 ◆ペンや鉛筆など素材を変えて、また紙の形や大きさを変えてこすりだしをしてみましょう。 ◆園にはない木肌を探してみましょう。		
準備物・教材等	・紙(子ども用：A4の1/4を1人3枚・支援者用：A3 10枚) ・クレパス(各1本 グループの色)・セロテープ(グループ数) ・はさみ(グループ数) ・こすりだし(4種類：見本用・2種類：ゲーム用・シンボルの木)	



プログラム名		ぼくもわたしも、みんなモグラ!					
対象年齢		年長 (5~6歳)					
ね ら い	メッセージ	豊かな感性を培おう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・においや音、光や手触りなどの感覚 ・モグラの気持ち 					
参加者のめやす		幼児 30人 / 支援者 6人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
自然を感じる ためのヒント							
時 間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
5分		①モグラの説明を聞く			<ul style="list-style-type: none"> ●事前にロープを張り、活動場所を決めておきます。 ●6グループに分かれておきます。 		
20分		②木と木の上にロープを張り、モグラの家や道を作る			●4本の木を使うように伝えます。		

「豆知識」モグラの特徴

食べ物：ミミズや昆虫

モグラはスコップのような大きな手と爪と、手のひらにある弓状の骨で、土を掘ったり、餌を探したりします。目は退化していますが、嗅覚は発達しています。土の中には、巣穴の他、餌を保存する貯蔵室とトイレ、餌を探すためのトンネルがあります。





時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
5分	③目を閉じて、ロープに沿って歩く ④においや土の感触を感じながら、もう一度歩く ⑤ふりかえり ・気づいたことを話す ・かたづけ	●木のポイントでは目を開けてもよい事を伝えます。 ◎他のグループが作った道も歩いてみましょう。 ●二度歩いたことの違いを聞きます。 ●目を閉じたことで、いろいろな感覚が研ぎ澄まされることに気づきましょう。  ▲目を閉じて、ロープづたいに歩きます。 ◎お勧め絵本 ・「もぐらのディガー」 作：テサ・ポター 絵：ケン・リリー ・「もぐらのグラボー」 作・絵：ルイズ・ムルシュツ
【異年齢への対応】 ◆年少：・好きな木を選び、その木の周りを、目を閉じて歩いてみましょう。 ・紙芝居などで、土の中にいる生きものについて知識を得ましょう。 ・家や道を作る活動と目を閉じて歩く活動を別の日にしましょう。 ◆年中：・同じ活動ができます。		
【園や家庭へ帰ってから】 ◆園庭にロープを張り、同じ活動をしてみましょう。 ◆家庭では、家族で手をつなぎ、30秒間真っ暗にしてみましょう。 ◆段ボールなどで、モグラの家作りをしましょう。		
準備物・教材等	ロープ	



プログラム名		きいてみよう 森の声					
対象年齢		年中・年長（4～6歳）					
ねらい	メッセージ	森には多様な生き物がいることやいろいろな音があることに気づこう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・見たり、探したりすることの楽しさ ・いろいろな音 					
参加者のめやす		幼児 30人 / 支援者 2人					
実施時間		20～30分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
5分	①自然の音を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな音が聞こえたか話し合う 			<ul style="list-style-type: none"> ●これからする活動に興味を持てるように話を進めます。 ●注意事項を伝えます。 ●静かに音が聞けるような雰囲気づくりをします。 ●子どもたちの気づきに共感し、イメージが膨らむように話を進めます。 		
5分	②支援者が出した音を聞く				<ul style="list-style-type: none"> ●竹の音や竹を揺らした音など、森の中の音を工夫して出してみましよう。 （例）・枯れた竹の上を歩く音 ・竹をたたく音 ◎どんな音がしたのか、尋ねてもいいでしょう。 		
							



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
10分	③音探し ・支援者が出した音を探す ・友だちと探す	●注意事項 ・笛の合図で元の場所にもどります。 ・支援者が見えるところで探します。 ・音が出たものは持ち帰って良いが、折ったりちぎったりしないことを伝えます。 ●ひとりで探すのではなく、友だちと一緒に探しに行くことを伝えます。 ●探しに行く前に期待がふくらむようにしましょう。
5分	④探してきた音を伝え合う ・音を出す	●子どもたちの気づきに共感したり、援助したりしましょう。 ●個々の気づきを取り入れながら、実際に音を出し、研究し合えるようにしましょう。 ◎子どもたちが見つけた音のところに行き、実際に音を出し、共有しましょう。
5分	⑤ふりかえり	●森の中には、いろいろな音があることをふりかえりながら、森の中には、いろいろな生き物が生きていることに気づけるようにしましょう。 ◎叩いてならず楽器もあれば、こすってならず楽器もあることにふれることで、自分たちの生活と結びつきます。
【異年齢への対応】 ◆年少：支援者と一緒に音を楽しみます。 ◆年中・年長：竹をリズムに合わせてたたいてみましょう。		
【園や家庭へ帰ってから】 ◆竹で楽器を作り、運動会などで活用してみましょう。 ◆家庭や公園などで、存在する音を親子で探してみましょう。 ◆音を言葉にして表してみましょう。		
準備物・教材等		



プログラム名		森の妖精の贈り物を探そう					
対象年齢		年中・年長（4～6歳）					
ねらい	メッセージ	自然の中で相手を思いやりながら共に過ごす大切さに気づこう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・林や森の中の暗さ、湿気、土、においなど ・竹の感触 ・落ち葉の下の自然物の発見 					
参加者のめやす		幼児 30人 / 支援者 2人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
準備	森の妖精からの手紙	<ul style="list-style-type: none"> ●当日までに、森の妖精から森の誘いの手紙が来ていると子どもたちに伝えておきます。 ●妖精の手紙は、葉っぱなどで自然素材を活かして作ります。 					
10分	①あそびの説明を聞く ②ひもをはる ・5歳児が竹から竹へひもをはる ・4歳児は支援者と一緒にする	<ul style="list-style-type: none"> ●竹や木の枝などでけがをしないよう注意して活動するように伝えます。 ◎高い場所や低い場所にひもを張り巡らしてみましよう。 ●4歳児は決められた範囲で支援者と一緒に行動しましょう。 					
							



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
15分	<p>③森の妖精の贈り物探し ・4・5歳児がペアになる</p> <p>・スタート ・はりめぐらしたひもをくぐったり、またいだりしながらゴール地点まで行く</p> <p>・竹を登り、森の妖精の贈り物 をもらう</p> <p>④ふりかえり ・発見したことを共有する ・あとかたづけ</p> 	<p>●森の妖精の贈り物は自然の中のを妖精からの贈り物として、準備します。</p> <p>●ペアが協力しあって行動できるように伝えます。</p>  <p>●天候によって贈り物の高さを変えましょう。</p> <p>●子どもたちの発見を話したり、自然についての話をしたりしましょう。</p> <p>●土に還るゴミと還らないゴミの違いを伝えながら一緒に片づけます。</p>
<p>【異年齢への対応】</p> <p>◆年少：コースができた状態で、贈り物は支援者が渡します。</p>		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <p>◆生活の中で、再利用できるゴミを使う機会を作るように促します。</p> <p>◆園では、ひもではなくゴムを使ってコースを作り、ゴム飛びなどに発展させてみましょう。</p>		
準備物・教材等	<p>・タフロープ（白2、黄6） ・森の妖精からの手紙（葉っぱなど自然の素材を活かす） ・はさみ・ビニール袋 ・和紙に包んだ森の妖精からの贈り物（どんぐりとひまわりの種 2人に1つ）</p>	

プログラム名		森の中で忍者になろう!!					
対象年齢		年中・年長(4~6歳)					
ねらい	メッセージ	身近な自然物が生き物にとって、生きていく上で大切なものであることに気づこう					
	発見・体感 できること	・木や葉の感触、においを体験する。					
参加者のめやす		幼児 30人 / 支援者 3人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
5分	①忍者からの巻物の話を聞く (内容・約束など)						
	・ハチマキをつける	<ul style="list-style-type: none"> ●支援者は事前にふろしきで覆面をしておきましょう。 ●ゲームに興味をもてるように、話をしましょう。 ●事前に約束ごとを伝え、安全にゲームができるように配慮をしましょう。 <div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・遠くに行かないようにしましょう。 ・笛の音が鳴ったら支援者の所へ戻りましょう。 ・友だちと仲良く遊びましょう。 </div>					
10分	②忍者の修行をする ・「忍び足の術」 森の中で音を立てないで歩く ・「ゴロゴロの術」 森の中に寝ころび転がる ・「木隠れの術」 木になりきる				<ul style="list-style-type: none"> ●忍者になりきれないようにハチマキ(赤・青・黄)を用意しておきましょう。 ●支援者もゲームを楽しみ、自然物に触れるおもしろさを伝えましょう。 ●自然物に触れる事に抵抗のある子どもには、その気持ちを受け止めて援助しましょう。 ●子どもたちの「つぶやき」を大切にして発見できた喜びに共感すると良いでしょう。 <div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>◎その他のいろいろな術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ウサギの術」ピョンピョン跳ねる ・「なりきりの術」いろいろなものに変身する ・「葉っぱ投げの術」葉っぱを手裏剣にして投げる ・「雨降らしの術」葉っぱを上へ投げる ・「モミモミの術」葉っぱをもんで粉にする <p style="text-align: right;">など</p> </div>		



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
2分	③支援者の所に集まる	●笛を鳴らして集まることを知らせ、話が聞けるように言葉がけをしましょう。 ●子どもたちの楽しかった思いを受け止めましょう。
5分	④好きな動物や虫に変身して宝物を探す ・「変身の術」葉っぱや木のおいをかぐ	●支援者も変身し、なりきって遊べるように呼びかけましょう。
5分	⑤ハチマキに自然物の宝物を貼ってもらう	●自然物の宝物を見つけた喜びに共感し、達成感を感じられるような言葉がけをすると良いでしょう。 ●大きな宝物が貼れるように、セロハンテープも用意しておきましょう。
3分	⑥支援者の話を聞く  	●まだゲームを続けたいという子どもたちの思いを受け止めながら、気持ちを落ち着かせましょう。 ●今日の「ふりかえり」をし、次のゲームにも期待が持てるような言葉がけをすると良いでしょう。 

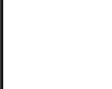
【異年齢への対応】

- ◆年少：・忍者を理解することができないので、導入に忍者などの絵本を読んで見本を見せましょう。
- ・「忍び足の術」と「木の葉隠れの術」（落ち葉に隠れる）は、3歳児には抵抗がないので2つに絞ったゲームにしてみましょう。
- ・忍者の巻物の内容を簡単にしてゲームをしてみましょう。
- ・何度も繰り返して遊ぶのも良いでしょう。
- ・ハチマキに貼る自然物は1つにして、探した物は腰につけた袋に入れて持ち帰りましょう。

【園や家庭へ帰ってから】

- ◆園庭の葉のおいをかぐことや葉の手触りを楽しみ探した自然物の宝物はハチマキに貼りましょう。
- ◆園庭を修行サーキットコースにして遊びましょう。
（築山のぼり・葉っぱ手裏剣・木に抱きつく・地面や芝生でゴロゴロの術など）
- ◆家の周りの葉っぱのおいをかぐことや手触りを楽しむようにして自然に親しみましょう。
- ◆家庭では「片づけの術」などで、子どもに「お片づけ」をしてもらうのも良いでしょう。

準備物・教材等	・笛 ・巻物（事前に用意をします） ・画用紙で作ったハチマキ（赤・黄・青） ・両面テープ（ハチマキの正面に貼る） ・ふるしき（ふく面用3枚） ・セロハンテープ
---------	---

プログラム名	いのししに変身!					
対象年齢	年中(4~5歳)					
ねらい	メッセージ	命の尊さを感じる				
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・いのししの暮らしを知る ・いのししになりきって、土や木の感触を体感する 				
参加者のめやす	幼児 28人 / 支援者 2人					
実施時間	30分					
フィールド						
	森・社寺林 公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期						
自然を感じる ためのヒント						
						
時間	活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
前日	①いのししの暮らしや生態について知る			<ul style="list-style-type: none"> ●いのししの特徴をペープサートで知らせて、いのししに興味を持てるようにしましょう。 ●明日いのししになりきることを知らせ、活動に期待が持てるようにしましょう。 		
当日 15分	 <p>なんで地面がボコボコになってるかな? →いのししが開けた!</p>			●いのししの特徴を確認して、活動に入れるようにしましょう。		
				●保育者が一緒にいのししになりきましょう。		
	 <p>ミミズは何を食べる? →葉っぱ →ミミズが葉っぱを食べて、そこにいのししがやってくるんだよ</p>					



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
<p>5分</p> <p>③ごちそう探しをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴をほってミミズや虫たちを探す ・見つけた虫たちを見せ合う ・土の中に虫たちを戻し命の大切さを知る <p>10分</p> <p>④グループに分かれて遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枝をミミズに見立てて集める ・グループで枝を一行に並べて長さ比べをする <p>⑤枝を土の方へ戻す</p>		<p>●虫探しをすることへの声掛けをしましょう。</p> <p>●虫が見つかりにくければ、他の場所へ誘導しましょう。</p> <p>●見つけた場所を明確にし、見せ合う場を設けましょう。</p> <p>●虫たちがまた土の中で、元気に暮らしていくことを伝え、命の尊さを示しましょう。</p> <p>●グループに分かれ、枝集めをすることを伝えましょう。</p> <p>●グループごとに集めた枝を置いていく場所を決めておきましょう。</p> <p>●コンクリートの所に並べましょう。</p> <p>●いのししがまたエサを食べにくることに期待を持たせましょう。</p>
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆いのししのお家づくり。ごっこ遊び。 ◆他の動物や生き物に目を向け、生態を知る。 ◆いのししの被害なども知り、正しいいのししとの付き合い方を学ぶ。 ◆いのしし体操をつくってみる。 ◆家の中で、一番長いものを探してみる。新聞紙をつなげてみる。 ◆ミミズを育ててみる。 		
準備物・教材等	フープ4つ	

こんな長いミミズがいたら、いのししさんが喜ぶのになあ



プログラム名		森のカレークッキング					
対象年齢		年中（4歳）					
ねらい	メッセージ	自然を保全する気持ちを持とう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな自然の形、色、においなどを触れたり、見たり、感じたりする。 ・森の動物が喜んで食べてくれるかなと期待して、カレーづくりを楽しむ。 					
参加者のめやす		幼児 28人 / 支援者 5人					
実施時間		30分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
15分	<p>①「発見ゲーム」をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あそび方を教えてもらう ・保育者が言ったものを友だちと一緒に探す <p>お題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1人で 「黄色い葉っぱ」 「虫が食べた跡がある葉っぱ」 ○4つのグループで 「においのするもの」 「つるつるしたもの」 ・見つけたものを友だちと見せ合う 	<ul style="list-style-type: none"> ●フィールドの中に見える物だけでなく、触れたり、においだり、五感を通していろんな物があることを気づいたり、感じたりできるよう言葉がけしましょう。 ●手に取れるもの、そうでないものも良いことを伝え、手に取ったものは、みんなが見やすいようにシートの上に置きましょう。 					
10分	<p>②「森の動物が食べられそうなもの」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の動物に喜んでもらえるカレーづくりをする 	<ul style="list-style-type: none"> ●森の動物が喜んでくれそうなカレーを作りたいという気持ちが高まるようにしましょう。（自分たちの経験も活かして） 					

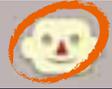


時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
<p>5分</p>	<p>③グループごとに分かれてカレーづくりをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料を集める ・なべやお皿などを探す ・かきまぜたり、盛ったりする <p>④出来たカレーを見せ合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の動物に聞こえるように大きな声で、カレーができたことを知らせる 	<p>●4つのグループがあるので、各グループに保育者が入り、子どもたちの発見やつぶやきに耳を傾け共感したり、アドバイスをしたりしながら一緒にカレーづくりを楽しむ。</p> <div data-bbox="853 488 1385 840" data-label="Image"></div> <div data-bbox="874 851 1364 1019" data-label="Text"> <p>森の動物さん食べに来てくれるかな？ どこから来てくれるかな？</p> </div>
	<div data-bbox="319 750 810 1019" data-label="Text"> <p>キノコを入れよう お肉はどうしよう。葉っぱにしよう。 ジャガイモがあった！ お皿もつくったよ エビを入れた（赤い葉っぱで）</p> </div> <div data-bbox="210 1030 742 1388" data-label="Image"></div>	
<p>準備物・教材等</p>	<p>シート（1枚）</p>	

【園や家庭へ帰ってから】

- ◆園庭の落ち葉を使って、特徴が見つけられるような発見ゲームをする。
- ◆視覚教材を使って、森の動物の生態を知る。
- ◆葉っぱや枝で森の動物のお家づくり。
- ◆カレーライスづくりを家庭で行い、具材について親子で考える。
- ◆保護者との散歩などで、遊んでもらう。
- ◆園での、様々なにおい探し。



プログラム名		“ナッチュのはやし” はみんなのワンダーランド					
対象年齢		年長（5～6歳）					
ねらい	メッセージ	自然の大きさや力強さを感じとり、自然物に無駄なものがないことに気づこう					
	発見・体感 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・木の音 ・木に登った時の達成感、気持ちよさ ・ドングリの大きさ・形・感触 ・ツルの長さ・太さ ・地面を踏みしめる感触と木の感触の違い ・木とツルの関係 					
参加者のめやす		幼児 8人×3グループ / 支援者 6人					
実施時間		55分					
フィールド							
		森・社寺林公園	山・里山	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園
実施可能時期							
							
自然を感じるためのヒント							
時間		活 動			●配慮・アドバイス ◎アレンジ		
5分		《くぐって 登って おさるになろう》			※「ナッチュ」は甲賀市立岩上保育園のキャラクターです。→p5「シンボル（象徴）を活用しよう」参照		
10分		①木の音を聞く ・木に耳をあてる ・木をたたく （倒木と立ち木を比較）			●音を聞いた時に、子どもたちが発見したことに共感し、立ち木と倒木の違いを気づかせるようにしましょう。		
		②おさるに変身！ ・木をくぐる ・木に登る ・木を渡る ・木にぶらさがって、降りる （繰り返し遊ぶ）			●木のぼりの好きな動物になりきって、森の中で遊ぶ楽しさが感じられるようにしましょう。 ●支援者は、木の上り下りの手助けをし、危険な場面では、その都度援助をします。 ●遊びの中から出た子どもたちの言葉を受け止め共感しましょう。 《子どもたちの声》 「毛が生えている木がある。すごい！」 「きのこ！きのこ！木にきのこが生えている！」		
					「魔法を使って、おさるに変身！ウキッ！！」		



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
5分	③感想を聞く (見つけたもの・気づいたこと) ・なぜ木が倒れたのかを投げかける	●子どもたちが発見したことや気づいたことに共感し、自然の力強さや生命力に気づき、すべてのものが林にとって役立っているということをはなします。 <子どもたちの声> 「倒れた木は、根っこが取れて 水が入らないから死んでると思う」 「台風で倒れた」 「怪獣が倒したんとちがうか」 「木はみんな生きてるんやな」 「木は強かった」
5分	《ドングリを探そう》 ④緑や茶色・帽子の有無・大小などいろいろなドングリを探す	 <p>倒れた木に生えている新しい枝を発見！ 倒れた木は生きてるんだ！！</p>
5分	⑤探したドングリの大きさや色、形などを比べる	●比べることで、子どもたちが発見したことや感じたことを話し合しましょう。 ◎的を決めてドングリを投げる遊びができます。
3分	⑥ドングリを自然にかえす	●ドングリが虫や動物などの食べ物になることや新しい生命になることを伝えます。
10分	《『木づく』『見ツルける』》 ⑦ツルを使ったあそびを考えてみる ・トンネルのようにくぐる ・ひっばる ・ぶらさがる など	●ツタウルシに注意しましょう。 →p17「気をつけよう！ 危険な動植物」 ●遊ぶ場所のまわりに危険なものがないか、またツルの強度を確認します。 ●活動場所の範囲を決め、今回使う木とツルを知らせます。 ●遊びが考えられるように投げかけたり、支援者も一緒にやってみたりしましょう。 ●遊びを通して、ツルの丈夫さに気づかせるようにしましょう。

ドングリはないかな？



時 間	活 動	●配慮・アドバイス ◎アレンジ
7分	⑧木とツルの観察 ・見たり、触ったりして、比べる ・ツルをたどってみる	●「今ぶらさがっていたものは何だろう？」と投げかけます。 ●木とツルの特徴に気づけるようにしましょう。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e0f0e0;"> <p>「豆知識」ツルの特徴</p> <p>自らの力で体を支えるのではなく、他の樹木を支えにして、光を求めて高いところへ茎を伸ばしていく植物。 (例) ノダフジ・ヤマフジ・クスなど</p> </div>		
5分	⑨木とツルの関係について話し合う	◎ツルの根っこがどこまで伸びているのか掘りおこしてみよう。 ●木とツルがからみあっていることや、ツルだけでは生きていけないこと、木の支えで生きていることを伝えます。
<p>【異年齢への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆年少： <ul style="list-style-type: none"> ・ 倒木を基地にして、リスなどになりきり、食べ物を集めたりして、あそびます。 ・ 倒木にまたがって、電車ごっこあそび。 ・ ブランコあそび。 ・ ドングリで玉入れ。 ・ ツルと木になって、なりきりあそび。 ◆年中： <ul style="list-style-type: none"> ・ 補助をすれば、倒木からジャンプすることができます。 ・ 安定した倒木であれば、ドンジャンケンができます。 ・ かくれんぼができます。 		
<p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆公園や庭木の太さを、体を使って計ってみましょう。 ◆木やツルで作ったものを探してみましょう。 ◆ドングリで玩具や楽器を作ってみましょう。(例) コマ、ヨーヨー、ペンダント、マラカスなど ◆親子でドングリの実がなっている木を見に行きましょう。 ◆母が木、子がツルになり、抱きつきあそびをして、スキンシップをとりましょう。 ◆ツルで、なわとびをしたり、電車ごっこのロープ代わりにしたりして、あそんでみましょう。 ◆家族（支えあって生きている）の大切さについて話し合ってみましょう。 		
準備物・教材等	・ 白い布	